

個別懇談を有意義なものにするために

11月になり、朝夕の冷え込みに冬の訪れが近いことが感じられるこの頃となりました。今月の末からは個別懇談も始まります。個別懇談を有意義なものにするためのちょっとした心構えについて考えてみました。

1 話し合いでは

「先生どうですか。うちの子どもは。学校では勉強や友だちと仲良く出来ているのですか。」(お子さんの勉強や友だち関係は大変気になることです。)

と、尋ねられたとき、担任はことばを選びながらお子さんの様子をお話します。お子さんの良い点を話す場合は問題ないのですが、学校生活の中で困っていること、家庭と協力しながら直していこうと考えていることなど話すときは大変気を使います。担任は保護者の方を心をおもんばかり、ことばを選び、婉曲(えんきょく)に話すことも多くなります。その時、

「そうですね。今、先生が話されたことは家でも時々見られるので私も心配しているのですが。」

と、相槌をうちながら受け入れていただける場合と、

「そうですか。家ではそんな様子は見えないのですが。」

と、否定的に対応される場合があります。

前者の場合は、担任は自分の見方が分かってもらえたと思い、両者の間に親和的な雰囲気広がりが、話が次々と進みます。そこから、お子さんを更に伸ばすための具体的な手掛かりや方法が見つかるかもしれません。そのような方法が見つからなくても、保護者と担任の間の理解が深まります。そのことだけでも有意義な懇談会になったといえます。

後者の場合はどうでしょう。担任は保護者との間に子どもに対する見方の違いを感じてしまいます。それでも担任は、お子さんの学校での様子について話をします。しかし、最初にお子さんの行動に対する見方の違いを感じていますから、10の話をしようとしても、3とか4に止(とど)めて話をすることもあります。すると話の内容は核心に触れず、当り障りの無い表面的な話に終始するだけになる場合も考えられます。結局、せっかくの懇談があまり有意義なものにならないことになります。

確かに、一度の懇談で担任と保護者が分かりあえ、お子さんの指導について共通理解を持つことが出来る程簡単なものではないことは承知しています。しかし、せっかくの懇談会です。その時間を有意義なものに出来るよう努めたいものです。

話のコツとしては、担任の指摘に対して、「そんな様子はないと思うが」と思われても子どもは家庭と学校では様子が違うものですから、担任の見方を受け入れ、次のことばを言いやすくするのが賢明な方法だと思います。

2 話し合いの後では(懇談の様子をわが子にどのように伝えるか)

個別懇談が終わり家路につきました。あなたはどのようにお子さんに今日のことを伝えますか。

①今日の懇談会で、担任の先生から子どもの良い所を一杯誉めてもらった。帰ったら私は○○(子どもの名前)を抱きしめて一杯誉めてあげよう。

②今日の懇談会で、担任の先生から子どもの良い所を一杯誉めてもらった。学校生活

を心配なく送っているようなので一安心。うちの子は誉めると調子に乗るので、子どもには何も言わず先生の「誉めことば」は私へのご褒美と考え自分の心に留めておこう。

③今日の懇談会では、担任の先生から子どもの直した方が良い点、問題点を幾つか指摘された。非常にながかりするとともに腹が立った。今日はもう叱りまくってやる。

④今日の懇談会で、担任の先生から子どもの直したらよい点を幾つか指摘された。そのような点は確かに見られる。どのように直していったらよいか、今日は子どもと話し合ってみよう。

⑤今日の懇談会で、担任の先生から子どもの直したらよい点を幾つか指摘された。でも良い点も話してもらった。今日は、良い点を子どもには話してみよう。

これ以外にもあるかと思いますが、どの方法が一番良いか答える前に、保護者の皆さんに「立場を入れ替え考えてみる習慣づくり」をお勧めします。それは、「もし、私が子どもだった、お母さん(お父さん)からどのようにしてもらいたいだろうか。」ということです。そんなことを考えてみると案外良い方法が見つかるものです。

お子さんは、子ども心にも、「お母さん(お父さん)は先生とどんな話をしたのかな。聞きたいな。」そんな気持ちを持っていることでしょう。その時心することとしては、話し合いの内容で、

○このことは子どもに伝えた方が良い。

○このことは、私(お父さんやお母さんなどの保護者)が心に留めておけば良い。

という事柄があります。担任から話された内容を全てを子どもに伝えるというのは教育的な効果という点では疑問です。担任から指摘を受けたことを自分の心で受け止め「このことは私が承知していよう。このことは子どもに伝えよう。」と整理しお子さんに話すことが大切です。今、先生から聞いた子どもの学校生活での頑張りや良いことを次のように伝えたとします。

「○○は、この前、学校でこんな良いことをしたそうだね。先生がとても感心していたよ。先生の話聞き、お母さん(お父さん)までとても嬉しくなったよ。」

すると、子ども心にも嬉しく思うものでしょう。その嬉しさは次のようなものだと考えられます。

○1つは、お母さん(お父さん)に誉められた喜びです。

・お母さんは私が誉められたことを自分のことのように喜んでくれた。良かったな。よし、私はもっとお母さん(お父さん)を喜ばせるように頑張るぞ。

○2つ目は担任に対する信頼感の深まりです。

・先生から私はこの前、ずいぶん叱られ落ち込んでいた。けど先生は、私の良さもちゃんと見ていてくれたんだ。良かったな。先生は厳しいけど、優しい面も持った本当に良い先生なんだ。よし、もっと先生に良い所を見てもらえるように頑張るぞ。

3 あとがき

そんなにうまくいくものかな、と疑問に感じる方も多いと思います。個別懇談を有意義なものにする方法について考えてみました。ただ、私が学級担任をしていた時代(今から10年以上前)と今では親子関係も変化し、子どもの受け取り方も違います。そのため、これまでの話がそのままあてはまらない点も多いと思いますが、少しでも参考になれば幸いです。